

原発周辺 健康リスクは

住民対象の研究打ち切り

大量の放射線が瞬間的に襲ってくる原爆被爆に比べ、長期間にわたり少しずつ被曝する場合、どんな健康影響があり得るかを調べるのは簡単でない。核実験や核兵器開発の関連ならまだしも、規制を順守し稼働する原子力発電所の周辺となれば、さらにハードルは高くなる。核大国の米国では昨年夏、原発の周辺住民を対象にした研究計画が中止になった。当事者間で、冷めた声と「科学的に探求すべきだ」との思いが交錯する。(金崎由美)



オイスタークリーク原発。米原子力規制委員会提供

「放射性物質のトリチウムが漏れ出して地下水脈に達するなど、住民生活に影響を及ぼしてきた」と、地元の環境団体が活動するタウロさんは、廃炉を求めてきた。2012年10月には米東部が大型ハリケーンに襲われ、原発が浸水する恐れから非常事態宣言が出された。その前年、東京電力福島第1原発が地震、津波と冠水を経て電源喪失したため大惨事に至ったことを思い出した。

同原発を運営する企業は、操業許可の期限よりも10年早い19年までに稼働を止める方針だ。



タウロさん(左端)の家に集まり、地域の環境について話し合う仲間たち。「この州のどこに住んでも、原発から50㌦以上離れられない。皆に共通する問題」

水辺に豊かな緑と美しい家が並ぶが、米ニュージャージー州ブリックは、摩天楼が林立するニューヨークから車で南へ1時間余り。いかにも住環境に恵まれた地区である。「退職後に都会から引っ越してこようという」と、シヤネット・タウロさん(56)は笑顔を見せた。「でも、私自身は不安を抱えている。フクシマと同じ型の原発が近くに自宅からさらに南へ30㌦の川沿いに立つオイスタークリーク原発のことだ。1969年に稼働。現役の原発では全米最古である。」

放射能漏れと関連ない 症例増だが

放射能漏れと関連ない 高い発症率

VS

放射能漏れと関連ない 症例増だが

放射能漏れと関連ない 高い発症率

スリーマイル事故疫学調査 同じデータで異なる結論

原爆から環境中に放出される放射性物質について懸念する声が上がる背景には、福島第1原発事故だけでなく、1979年3月に発生したスリーマイルアイランド原発事故の記憶も関係している。

米北東部ペンシルベニア州のハリスバーグ郊外で、営業運転を始めたばかりだった2号機。誤操作と不具合が重なって原子炉の冷却ができなくなり、炉心溶融に至った。世界的にも旧ソ連のチェルノブイリ原発事故、福島第1原発事故に次ぐ過酷事故である。

ただ、核燃料は格納容器にとどまったため放射性物質の放出はそれほど多くなく、「住民が避難したことが幸いし、被曝線量が最大で1シーベルト以下」とされた。州当局が81年に発表した住民調査の結果でも、原発から半径10㌦(18㌦以内)での子どもの死亡率は上がっていないと確認された。

しかし、専門家による疫学調査が相次いで行われた結果、相反する結論が出された。病院に残る事故後約10年間の住民カルテなどを分析したコロンビア大のチー

地域の活動仲間が4月下旬、タウロさん宅に集まり、この問題に議論が及んだ。原発の近くでは小児がんや流産が多いと住民は話している。住民の健康問題を説明できるかもしれないのに、800万がそんな高いのか」とタウロさんは憤る。一方、ポーラ・ゴツジュン(80)は「当初から『大丈夫』という結果しか出さないつもりだったと思う。原子力業界から、研究継続に対する圧力があつたとしても驚かない」と冷めた見方だ。

「大人の男性を基準にした研究では分からないことがある。胎児にとっての健康影響はどうか。小児白血病の発症と関係しているのか。研究すべきだ」

5月上旬、首都ワシントンで反核団体「ビヨンド・ニュークリア」が福島第1原発事故から5年の節目に開いたシンポジウムで、メンバーのシンディー・フォーカーさん(47)が強調した。米原子力規制委員会(NRC)が、予算と時間の浪費を理由に原発周辺でのがんリスク研究を中止したことを受けた発言だ。

シンポに招かれていたサウスカロライナ大のティモシー・ムソー教授は、NRCから委託された米科学アカデミー(NAS)の専門委員として、2012年の報告書の作成に携わった。後日の取材に「打ち切る理由が本当は別にあるのかは分からない」と話した。同時に、「お金を投じれば一定の成果を得ることができるか、となれば難しいのも確か。仮に健康影響がわずかに存在しても、見つけ出せない可能性すらある」と述べた。

ハードルの一つは、データの「質」だという。「放射性物質の放出量は、平均値だけではなく上下動も把握できない。一瞬跳ね上がった時の影響も観察すべきだ。だが現状では簡単でない」人間のデータも同様だ。「国民皆保険制度で受診データが整っており、がんの発症歴も正確に確認できる日本とは大きく違う。死因の記録だけでは、がんでも違う病名で記録されている場合が少なくない」と指摘する。

結果を得た上で知識を深める方がいい

研究者揺れる心境

「お金を投じれば成果を得られるか、難しい」

それでも、ムソーさんは「続けるべきだと自分は考えている。非常に残念だ」と言う。健康影響を恐れている住民に、できる限りの研究成果を提供するだけでも意義はある。そのための予算ならば法外ではないと思うからだ。「『影響はある』との情報を住民に一切出さたくない、という原子力業界の意向は感じる。だが、結果を得た上でお互いが知識を深める方がいい」

12年7月から14年末までNRCの委員長を務めたアリソン・マクファーレンさんは任期中、「計画を進める方針への異議は聞かれなかった」と断言する。「ただ、連邦議会からNRCに対する予算削減のプレッシャーは常にある」

政策の優先順位、費用、議会や業界の意向、そして住民感情一。それらが科学的な追究と複雑に絡み合う。

中国新聞 アルファ

地域のニュースを日々更新!

ウェブサービスならではの便利な機能

- キーワード検索でお目当ての記事を探す
- 出張先や旅行中でも読める
- 社説・天風録・コラムをまとめて読める
- 全ての地方版が読める

新聞月ごめ購読者は 追加料金不要!

- 朝刊月ごめ購読者の方...3,093円(税込)
- 有料コース限定コンテンツを月20本まで閲覧可。電子版は1週間閲覧可。
- 朝刊+SELECT月ごめ購読者の方...4,030円(税込)
- 全てのコンテンツを閲覧可。電子版は1か月間閲覧可。

中国新聞アルファのトップページにアクセスし、ちゅービーIDでログイン

まずはちゅービーIDのご登録を

中国新聞アルファ 検索

http://www.chugoku-np.co.jp/

お問い合わせ フリーダイヤル0120-330454 (平日9:30~17:30)